

ベトザタの池のまわりで病気の人などがこの池の水が動くのを待っていました。それはこの池に天使が降りてくると水面が動き、その時最初に池の中に入った人は癒される、と信じられていたからです。そこに 38 年間足が不自由なことで苦しんでいる人がいました。イエスは彼に「良くなりたいか」と言います。しかし、イエスのこの問いに対して、彼の口から出たのは、自分を池に入れてくれる人がいない、他の人が先に池の中に入ってしまふ、という言葉でした。彼は、素直に「良くなりたい」と言い表すことができないほどに、良くなることを全く期待していなかったのです。イエスは、彼の本当の求めを見抜き、「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」と命じました。「起き上がりなさい」「床を担ぐ」「歩く」という三つの言葉は、絶望の中から新しい出発を示す象徴的な言葉です。「起き上がりなさい」は「復活しなさい」とも訳せます。この出来事は、単に彼の病気が癒されたのではなく、絶望しきった死人のような彼を復活させるような出来事であったのです。そして、長年歩いたことのない人が突然歩きました。また、床は彼が長年横たわっていた場所です。それを担ぐとは、もうそれに頼ることはないという積極的な姿勢を示しています。歩くとは、そこから前進していくのです。しかし、彼は癒してくれた人がイエスであることを知りませんでした。この福音書の奇跡物語は、奇跡は徴として描かれ、主題は徴によってイエスを信頼するか否か、イエスが誰であるか、イエスがどこから来た方で、どこへ行く方であるかを知るか否かなのです。その後、彼は神殿の境内でイエスに出会います。14 節のイエスの言葉は、ユダヤ教の病気や身体的障がいは罪の結果であるとの考えによれば、「罪が赦されたのだから、これからは罪を犯さないように。」という意味になります。しかし、イエスが言ったのはそのような意味ではないのです。私たちはイエスに救いを求めます。そして、イエスは私たちを神さまに従う者として新しく生きる道を与えてくれます。罪を犯さないようにというのは、律法に完全に従う人として生きるようにということではなく、神さま、イエスと共に生きよ、ということなのです。

私たち、キリスト者はイエスと出会って、それによって立ち上がらされ、新しく歩み始めた者です。しかし、それは既に確保したものとして、ずっと続くものではありません。いつも新しくイエスの言葉、神さまの言葉を聞き、いつも新しく立ち上がらせられないと、私たちはイエスを見失ってしまうのです。14 節の言葉は、私たちにも聞こえてくるのではないのでしょうか。